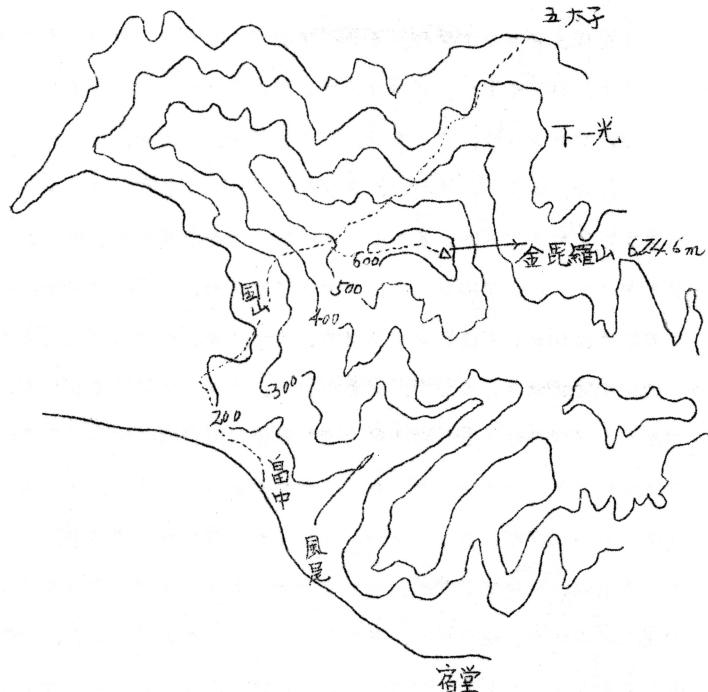


## 福井市金毘羅山採集記

渡辺 定 路

1968年のゴールデンウイークは雨でだめになるのかと心配したが最後の5月5日は快晴に恵まれ午前7時30分発の茱崎行に乗車。畠中で下車し国山部落に行く林道を少し行くと今日の採集目的の1つであるコゴメウツギの花ざかりを発見し幸先のよいスタートに気をよくし写真を撮り、10枚ほど標本をつくる。さらに少し行くとウラジロウツギの満開したものがあり、これも撮影し、標本を作る。この中にはハナヒメウツギも混生していた。国山部落までの道路横にはヤブマオウ、ウツギ、ナワシロイチゴ、アキカラマツ、ケヤキ、ツボスミレ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、キツネノボタン、ウマノアシガタ、エノキ、カンサイタンポポ、ミゾイチゴツナギ、イチゴツナギ、ニシノホンモンジスグフキ、ヤマグワ、ミゾソバ、ドデヨウツナギ、スズメノテツボウ、ヨモギ、ドクダミ、アケビ、セリ、イタドリ、ヒメヒオウギズイセン、ヤマアジサイ、ツルカノコソウ、カモジグサ、コウゾリナ、ゴヨウアゲ、ミツバアケビ、カニツリグサ、ミミナグサ、ノイバラ、ヒメアオキ、ボタンズル、エゴノキ、ムラサキケマン、ケキブシ、イ、ノアザミ、ヤマガシユウ、カキドウシ、ヤマブキ、ネズミモチ、イボタノキ、シャク、モミジイチゴ、ミツバ、マムシグサ、シライトイソウ、コメガヤ、スイカズラ、コチャルメルソウ、ホクリクネコノソウ、ヤブタビラコ、サンショウ、ハイイヌガヤ、ウバユリ、ツノハシバミ、ツリバナ、アキギリ、オオレン、コアジサイ、タンナサワフタギ、エンコウカエデ、クロモジ、シロバナオオニガナ等の草本、木本類や、タチシノブ、イタチシダ、オオバノイノモトソウ、ヤマイヌワラビ、ゼンマ



---

イ、クジヤクシダ、クマワラビ、イヌガンソク、イヌワラビ、ゲジゲジシダ等の羊齒植物が見られた。

国山部落の寺の横から左右に柔畠を見ながら金毘羅山頂に向かって進みながら、カテンソウ、ノジシャ、ムラサキサギゴケ、ニワトコ、タチイヌノフグリ、スズメノカタビラ、タネツケバナ、フキ、ニシノホンモンジスグ、アキカラマツ、ナワシロイチゴ、ドクダミ、ヨモギ、キクムグラ、キユウリグサ、タチツボスミレ、オオイヌノフグリ、シャク、ムラキケマン、イタドリ、レンゲソウ、ヤエムグラ、オオバノヤエムグラ、セイタカタンポポ、カモジグサ、スミレサイシン、トウバナ、カキドウシ、スミレ、ヤブタビラコ、キツネノボタン、ウマノアシガタ、ヒメジョン、ヌスピトハギ、ウツギ、ヤマウルシ、オカトラノオ、スズメノヤリ、ヌカボシソウ、ノイバラ、アオイスミレ、セントウソウ、オオタチツボスミレ、ミツバ、ナルコユリ、ダンコウバイ、アカソ、アケビ、ゴヨウアケビ、ミツバアケビ、ニガナ、ウマノミツバ、キンミズヒキ、スイバ、コウゾリナ、シライトウ、ツルカノコソウ、アサツキ、ハナイカダ、ホクリクネコノメソウ、チャボガヤ、サンショウ、クロモジ、ボタンズル、ニガキ、ケヤキ、ヒメアオキ、オクマワラビ、エゾエノキ、ムラサキケマン、ミゾハコベ、ホウチヤソウ、ツルニンジン、ウリノキ、ウワミズザクラ、アマチャズル、サルトリイバラ、アキヨウジ、キランソウ、トリアシショウマ、ムラサキマユミ、ムラサキシキブ、ヤマトアオダモ、ミツバウツギ、ニガイチゴ、チゴユリ、エンコウカエデ、シシウド、エンレイソウ、ヤマブキ、イノコズチ、オオナルコユリ、ジャニンジン、ケナシヤブデマリ、イノデ、ノキシノブ、イヌワラビ、ミゾシダ、クジヤクシダ、オクマワラビ、サカゲイノデ等を採集し杉林を通過し最後の田の横に出る。ここから尾根までの道路横にはオオウラジロノキ、コナラ、コマユミ、ヤマジノホトトギス、アギスミレ、イヌシデ、タンナサワフタギ、タニウツギ、ウメモドキ、トリアシショウマ、クヌギ、ウリハダカエデ、ツタウルシ、モミジイチゴ、ヤマアシサイ、ヤマウコギ、フユイチゴ、ショウジョウパカマ、トキワイカリソウ、ヤマエンゴサク、ウバユリ、スミレサイシン、イチリンソウ、シモツケ、フタリシズカ、ウツギ、エゴノキ、イワガラミ、ツボスミレ、ミツバスマレ、ウラシマソウ、コウモリカズラ、ナルナシユキツバキ、イボタノキ、ニガキ、ヒメシラスゲ、オヘビイチゴ、キジムシロ、ミミナグナ、オオバコ、サトメシダ、ゼンマイ、ワラビ等が、尾根の道路横には、ホオノキ、エダウチチゴユリ、チゴユリ、ホウチヤクソウ、クルマバハグマ、コアジサイ、エゴノキ、コハウチワカエデ、トリアシショウマ、ヤマブキ、エゾユズリハ、ミヤマカタバミ、オオカニコウモリ、サルナシ、ズミ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、ツボスミレ、キブシ、タンナサワフタギ、ザワハコベ、メギ、アケビ、コゴメウツギ、タニウツギ、ヤマツツジ、キジムシロ、ノイバラ、オオモミジ、

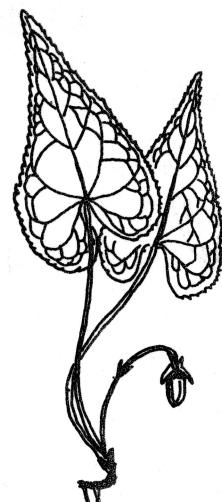
シロダモ、キツネヤナギ、ミヤマイラクサ、タラノキ、イラクサ、スミレサイシン、◎サンインスミレサイシン（福井県新）ヤマヤブソテツ、トラノオシダ、ジュウモンジシダ等が見られた。五太子の方に下る道路横の植生を見ると、ウリハダカエデ、エゴノキ、クリ、ミズナラ、リヨウブが第一層を形成し、第二層にはクロモジ、キンキマメザクラ、イボタノキ、ハイイヌガヤ、ツクバネウツギ、ケカツカ、ズミ、ヤマモミジ、ツリバナ、タニウツギ、ツルウメモドキ、タンナサワフタギ等が、第三層は、ニシノホンモンジスグ、ヒメカンスグ、オクノカンスグ、コジユズスグ、チゴユリ、トキワイカリソウ、スミレサイシ等からなっている。社のある頂上の植生は、スギ、ヒノキ、ハウチワカエデ、シナノキ、ミズナラ、ヤマザクラ、イヌシデが第一層を形成し、その下にはムシカリ、リヨウブ、クロモジ、ヤマボウシ、ウワミズザクラ、マルバアオダモ、サンカクズル、ツクバネウツギ、キンキマメザ克拉、ツタウルシ、ハンショウズ、マツブサ、ツリバナ、ヤマモミジ、ミツバアケビ、コバノガマズミ、ヤマブキ、ツノハシバミ、ウワミズザクラ、モミジイチゴ、ミヤマガマズミ、タニウツギ、ケカツカ、ツクバネ、ヒメアオキ、タンナサワフタギ、ヒメアオキ、クロウメモドキ、ムラサキシキブ等が第二層を形成し、第三層にはチゴユリ、タチドコロ、タチツボスミレ、ヤマイヌワラビ、ヤマムグラ、スミレサイシン、トキワイリソウ、ササユリ、シロヨメナ、ヤマジノホトトギス、オカトラノオ、ナルコユリ、ツボスミレ、ヒメカンスグ、オクノカンスグ、ミヤマカンスグ、ヒロバスグ、◎コヒロバスグ（福井県新）等が見られた。

サンインスミレサイシが母種のスミレサイシンと異なる点は図でわかるように夏葉においてスミレサイシンは心円形をなして、葉身の長さと幅がほとんど同じであるのに対して、本変種は三角状卵心形をなしている点が異なるのみ、葉の幅5～6cm、長さ7～8cm分布は和名の通り西部山陰（島根、鳥取）地方のブナ帯である。これが金毘羅山の尾根に自生しているからには若狭から連続分布していると考えられるので、今後会員の方も注意して下さい。

#### コヒロバスグ

(*Carex insaniae* Koidz.

form. *angustifolia* Akiyama)



サンインスミレサイシン  
*Viola vaginata* Maxim  
var. *satomii* F.Mak. et Hoshimoto

---

はヒロバスゲの葉の幅の狭いものである。

ウラジロウツギは岐阜県以西の本州、四国に分布、本県では鮎川から武周付近までではないかと思われる。

コゴメウツギは北海道、本州、四国、九州、朝鮮に分布、しかし北陸（富山、石川、福井）では旧殿下村の金毘羅山から、向山付近が唯一の産地のようである。



ウラジロウツギ



コゴメウツギ